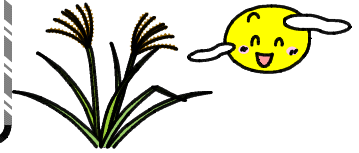


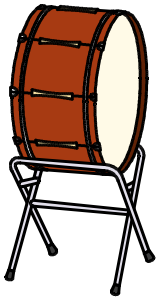
湊小たより



平成29年(2017年)10月号

学校長 小谷雅之

朝晩めっきり涼しくなってきましたが、保護者の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。学校では、学習、スポーツ、文化の秋本番が始まり、先生と子供たちが共に良い思い出づくりと学力向上にも向けて取り組んでいます。2学期も、本校の教育活動にご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお祈りします。



さて、10月と言えばスポーツの時期ですが、本校の運動会は9月30日(土)に予定しています。どの子の心の中にも思い出に残る体験をと願いますが、特に6年生は小学校最後の運動会ということもあり、精一杯のがんばり精神で取り組んで欲しいと思っています。そして、こうした大きな行事の裏では、保護者や地域の方々のお手伝い、支えがあつての開催ということもずっと忘れないでいて欲しいですね。

日常生活の中で 視点を変えて

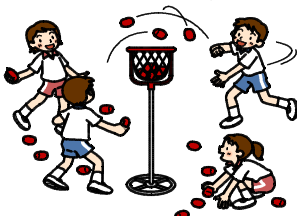
子供たちは、学校行事や学習、体験活動など、学校や日常生活の中で、おうちの人や兄弟、あるいは先生から指示された「自分がすべきこと」に、どんな気持ちで取り組んでいるのでしょうか。みんなが何にでも意欲的に楽しく取り組めていれば、それは喜ばしいことです。でも、もし、単に「やらなければならない」という義務感だけで取り組んでいる子がいると、その子にとっては、「ちょっとしんどいな〜」と感じたり「イヤだな〜、重荷だな〜」と感じられ、味気ないものになってしまいます。

そこで、まず「自分がすべきこと」に対して、明るい気持ちでできるようにするには、一度、その「すべきこと」を別の視点から見つめなおし、「すべきこと」の一つひとつが自分にとって、どのような目的、利点があり、どういった良いことが得られるのかを知ることが重要だと思います。そうした見つめなおしにより、自分の行動の意義を理解でき、新たな喜びと意欲をもって取り組めるようになるのではないかと思います。

先日、高野山で緑育の宿泊体験をした5年生のことです。カレー作りの飯盒炊爨(はんごうすいさん)をし、ナベや飯ごう等の後片付けをしました。ナベなどをきれいに洗った後、学校生活でもよく見かける光景でしたが、流し口にたまったゴミを取り除くだけでなく、その中のゴミよけの栓ま



でもきれいに、ゴシゴシ磨いてくれている子がいて、感心しました。「当然すべきこと」として取り組んでくれたのですが、あとで使う人にとっても大変気持ちよく、水が良く流れ、使いやすくなります。ちょっとした行為ですが、自分の行動を見つめなおし、どれだけ意味のあることをしているかを感じながら前へ進んでいくようにすると、中身の濃い、充実した、すがすがしい日常生活が送れるのではないで



でしょうか。おうちでも、是非子供の様子を見ていただいて、活気のある意欲的な生活が送れるよう、ちょっとしたアドバイスをしてあげると、子供の行動がよりハツラツとしたものになっていくかも知れません。

